

これまで、的確な病態解明や高水準の治療遂行が医療に期待されてきたのは当然のことですが、今日の日本には高齢社会の急速な進行という厳しい現実が押し寄せています。治癒をめざすことが困難な病態に陥った患者、合併症のため侵襲的な治療処置を実施することが難しい患者、認知機能障害のため明瞭にリビングウィルを表明できない患者など、高齢社会においては、高度な医療を提供するというアプローチだけでは解決することのできない命題に数多く遭遇することになります。

そのような背景のもと、医療へのアクセスに制限が生じたとしても自宅で療養したいという患者に対して提供される在宅医療の必要性が、今後ますます大きくなっていきます。しかしながら、そこで対象となる疾患や病態は様々な診療科領域に及ぶこと、患者の生活やこれまで歩んできた人生、取り巻く家族や地域の事情などを把握しつつ、平穏な生活の継続や苦痛の緩和、生活の質の維持・向上に重きを置いて対応する必要があることから、在宅医療ではわが国のこれまでの初期臨床研修制度や専門医養成過程だけでは十分に修得できない臨床能力が求められます。

そこで、在宅医療の基盤をなす重要領域として「家庭医療学」「老年医学」「緩和医療学」の3領域を取り上げ、これらの領域の知見を統合する形で在宅医療のエッセンスの結集を企図しました。各領域について第一線でご活躍の先生方にご執筆の労を取っていただき、本書を刊行できる運びとなりました。これらの広範囲にわたる知見について学ぶことによって、病棟であれ、外来であれ、在宅であれ、患者中心の医療ケアを遂行する医師として地域で活躍するための道しるべになるものと確信いたします。あわせて、地域で在宅医療に従事する訪問看護師や歯科医師、薬剤師、そしてケアマネジャーなどの多職種にとっても、医療が有する可能性やその適応を知り、医師の考え方を知る良きガイドになることでしょう。数多くの医師や在宅医療に従事する多職種の方々が、困難な命題にぶつかったときに手にする座右の書としてお使いいただけたら幸いです。

2013年12月

あおぞら診療所 川越 正平